

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録		
招 集 期 日	令 和 8 年 5 月 2 0 日 (水)	
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室	
開 会	5 月 2 0 日 午 後 3 時 3 0 分	
閉 会	5 月 2 0 日 午 後 5 時 1 5 分	
教 育 長	戸 ヶ 崎 勤	
教 育 長 ・ 委 員 出 席 状 況	戸 ヶ 崎 勤	出 席
	仙 波 憲 一	出 席
	木 村 雅 文	出 席
	長 道 修	出 席
	浜 田 美 咲	出 席
説 明 員 (出 席 者)	川和田教育部長、梶山参事、片境次長、田野副参事、	
	重信教育総務課長、高井教育政策室担当課長、	
	本山生涯学習課主幹	
書 記	教育総務課 柴田主幹 我妻副主幹	
傍 聴 人	0 名	

会議の経過及び結果

教育長

本日は、先月4月6日(月)の読賣新聞のコラム「編集手帳」の記事を引用しながらお話しいたします。江戸時代の儒学者である佐藤一斎は、「自分に厳しい人は他人に厳しく、他人に寛容な人は自分に甘い」とし、人はどちらかに偏りがちであると述べています。理想は「自分に厳しく、他人に優しく」であることは誰もが理解しつつも、その実践の難しさを突きつけたものとも考えます。

昨今、気がかりな研究結果がありました。米国の研究チームによると、対話型AIのサービスを継続的に利用すると、人は自らの行動を正当化し、相手の立場を理解しようとする意欲が低くなる傾向が確認されたというものです。これは、対話型AIの特性として、利用者への入力に対して肯定的・補助的に応答する傾向があることも指摘されています。自分の行動を常に肯定してくれる存在は、一見心地よいものです。しかし、それに依存すれば、己を省みる機会を奪われ、「自分に甘く、他人に厳しい」独善的な人間となる危険性をはらんでいます。社会ルールや、他者を思いやる心の根底にある「共感性」が軽んじられることを危惧しています。

現在、学校では情報端末が普及し、子供たちが日常的にデジタル技術やAIに触れながら学ぶ環境が当たり前となりました。AIは教育を含め今後の社会を切り拓く強力なツールの一つです。だからこそ、正しく「使いこなす」ための確かな倫理観等を学ぶ「メディア情報リテラシー」の育成が急務です。コラムには、サトウハチローさんの『美しく自分を染めあげて下さい』という詩の一節が引用されていました。「赤ちゃんのときは白... / ひとにはやさしく / 自分にはきびしく / これをつづけると / 白はすばらしい色になる」

AIが私たちの思考や行動にさらなる影響を与える今後、心が自己中心的な色に濁らないようにするには、どうすればよいのでしょうか。画面の向こう側のAIが瞬時に与えてくれる正解や肯定だけでなく、

	<p>教室という場で、異なる意見を持つ他者と向き合うこと。時にぶつかり、悩みながらも、互いの声にじっくりと耳を傾け合う「聴き合う関係」を築くこと。そうした生身の人間同士の関わり合いを通じてのみ、子供たちは「他者の痛み」を想像する力を養い、自分自身を律する強さを身につけていくものと確信しています。</p> <p>どんなに技術が進歩しても、子供たちの心を美しく染め上げるのは、温かな人間関係であり、実社会での泥臭くも豊かな経験です。私たち大人が率先して「自分には厳しく、他人には優しく」の姿勢を体現していくことで、子供たちは、濁りのない「白」を描くことができると思っています。</p>
教育長	<p>それでは、ただいまから、令和8年第5回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。</p>
教育長	<p>前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいております。御異議がないようでしたら承認ということによろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>了承</p>
教育長	<p>それでは、会議録に御署名をお願いします。</p>
各委員	<p>署名</p>
教育長	<p>「教育委員提案」について御報告いたします。木村委員から御提案のありました「今後の市教委における教育DXの方向性について」を、事務局より説明願います。</p>
説明員	<p>それでは、木村委員から御提案のありました「教育委員提案 今後の市教委における教育DXの方向性について」の説明をいたします。</p> <p>教育DXを真に推進するためには、単なるツールの導入にとどまらず、構造的な課題を乗り越えていく必要があります。第一に重要なのは、西山圭太氏が提唱する「DX思考」の習得です。既存の手段にとらわれず、課題から逆算し、物事を抽象化して捉え、複数の解決策を柔</p>

軟に考える力が求められます。第二に、「サイロ化や形式主義」の打破です。部局ごとの縦割りや情報の分断を乗り越え、組織横断で取り組む体制を構築することが不可欠です。第三に、「技術基盤の最適化」です。クラウドを活用し、柔軟で拡張性のあるデータ活用基盤を整備していく必要があります。そして第四に、これらの取組を通じて「ユーザー体験の向上」と「組織を越えた連携」を一体的に進めることで、いわゆる「なんちゃってDX」に陥らない、本質的な教育DXが実現できるものと考えております。

教育DXに向けては様々な課題がありますが、本市では、「学び」「校務」「教育行政」「生涯学習」の4つの分野を柱としてDX化を進めてまいります。これまで業務の洗い出しを行う中で、単なるデジタイゼーション（電子化）にとどまらず、デジタライゼーション（最適化）に向けた抜本的な取組を進めてきました。今年度、教育委員会事務局内に「教育DX担当」を新設したことで、組織的にトランスフォーメーションを推進する体制を強化しております。こうした体制整備の一方で、DXをさらに進展させるためには、2つの視点が重要であると考えております。1つ目は、チャールズ・オリリー氏らが提唱する「両利きの経営」です。これは「既存事業を深める『知の深化』」と「新規事業を創出する『知の探索』」を両立させる考え方であり、長期的な変革を進める上で重要な指針となります。2つ目は、「DXは決して高価ではない」という点です。現在は、低コストで利用可能な業務ツールやクラウドサービス、ローコード・ノーコードの開発環境が充実しています。必ずしも大規模なシステム開発に依存せずとも、現場主導で変革を進めることが可能です。既成概念にとらわれず、課題を起点に「実現したい姿」を描き、ICTの強みを活かして新たな価値を創出することこそが、本市の目指す教育DXになります。

令和6年度、事務局内に「戸田市教育DX化プロジェクトチーム」を立ち上げ、本市におけるDXの方向性を取りまとめました。令和7年3月の最終報告では、戸田市教育振興計画の基本理念をベースとした「戸田市版教育DX化の定義」を示しました。この定義にある「ICTの

浸透」「身近なところから少しずつ実現・深化」「既成概念にとらわれず変化」という要素を具体化するため、3つのキーワードを定めました。1つ目は、【Born Digital】です。「ICTの浸透」を前提に、最初からデジタルを中心に業務を設計する考え方です。単なる置き換えではなく、ツールの組み合わせによって新たな価値や効率を生み出します。2つ目は、【建設的な失敗】です。失敗をマイナスと捉えず、次につながる「学び」として活かします。試行錯誤を通じて改善を重ねることで、DXの着実な定着を目指します。3つ目は、【Moonshot Thinking】です。現状の延長線上ではない、大胆な目標を描く考え方です。現行のルールを一度見直し、「本来どうあるべきか」という視点から、これまでにない大きな変革を目指します。

本市における教育DXの推進体制について御説明します。まず、「教育DX担当」の役割です。学校や事務局各課へのヒアリングを通じて課題を把握・分析し、デジタル技術を活用した解決策の案を整理します。次に、各課のメンバーで構成される「教育DX化ワーキングチーム」において、その解決策の実現可能性や業務への影響、具体的な実施内容を協議します。そして、その検討結果をもとに、「教育DX化プロジェクトチーム」が最終的な実施方針や進め方を決定します。決定した取組については、教育DX担当が中心となり、関係各課と連携しながら迅速に実行に移してまいります。

次に、具体的な業務の流れについて御説明します。「戸田市版教育DX化」は、以下の6つのステップで進めてまいります。課題の把握：ワーキングチームが中心となり現場の現状と課題を整理します。課題の分析・方向性の整理：DX担当が、ICT活用による解決案を作成します。解決策の詳細検討：ワーキングチームで具体的な実施内容を協議します。方針決定：プロジェクトチームが実施方針を意思決定します。取組の実施：DX担当と関係部署が連携し、具体策を実行します。効果検証・改善：取組の効果を検証し、さらなる改善へとつなげます。単に取組を進めるだけでなく、このサイクルを通じて効果検証を徹底することで、日々の業務に真に役立つ仕組みへと進化させてまいります。

す。

DX化は、先ほど申し上げたように「学び」「校務」「教育行政」「生涯学習」の4つの分野を柱として進めていきますが、時間の関係もありますので、「学びのDX」の一例について御説明します。近年、探究的な学びの進展を背景に、STEAM教育が注目されています。本市では、社会課題を解決する「プロジェクト型学習(PBL)」に注力し、独自の「戸田型PBL」を推進してきました。昨年度、市内全中学校にレーザー加工機を各3台整備したほか、中学校1校にはIntel社やダイワボウ情報システム社の支援を受け、探究学習のための特別教室「STEAM CAMPUS」を開設しました。これにより、社会課題を自分事として捉え、「本物」に触れながら実践的に学べる環境が整いました。これは「戸田型PBL」の第2フェーズとして、「ものづくり」を軸に技術的好奇心を育むものと考えております。今後は、大学・企業・専門家との協働により、学びの場を教室外へと広げていきます。生徒が地域や企業のリアルな課題に挑むことで、探究の質をさらに高めてまいります。「STEAM CAMPUS」の概要につきまして説明させていただきましたが、「百聞は一見に如かず」ですので、戸田中学校の作成動画を御覧いただきたいと思っております。

STEAM CAMPUSでは、デザインシンキングの手法を用い、科学的探究や技術的知識を活かしながら、人や社会に寄り添った解決策を模索することを想定しています。こうした取組を通じて、生徒の創造力・論理的思考・社会性を育むとともに、課題を「自分事」として捉え、改善し続ける姿勢を養い、高校段階のSTEAM教育へとつなげていくことを目指しています。

最後に、今後検討する項目の一例です。「学びの改革」では、先ほど説明したSTEAM教育の推進に加え、ICTを最大限に活かした多様な学びの実現に取り組みます。また、「働き方・環境改善」の視点では、「校務」「教育行政」「生涯学習」の各分野において具体的なDX化を検討してまいります。これらはいくまで一例ですが、今後も学校現場へのヒ

	アリングを丁寧に行い、課題の解決と新たな価値の創造に向けて取り組んでまいります。
教育長	何か御質問等がありましたら伺います。
委員	今後の取組例では、様々な取組が網羅されていますが、学校現場で取り組んでいくスケジュールは決まっていますか。また、この計画の対象は中学校ですか。
説明員	小・中学校すべてを対象としています。各学校にいろいろな課題がありますので、期限は決めずにできるところから実施していくということで取り組んでいます。学校に直接ヒアリングに行くところまでは着手ができておりませんので、今後、学校を訪問しながらヒアリングをしていきたいと思っております。
委員	学校の意向を踏まえながら着実に進めていただきたいと思います。
教育長	現在ある業務を抜本的に見直し、ICTに限らない視点も含めながら、いかに効率的・効果的に進めていくかを検討しています。デジタルトランスフォーメーションですので、従来のやり方を前提とせず、仕事の進め方そのものをも直していこうという取組を統括しているところです。そのため、単にデジタル化を進めることだけが目的ではありません。身近な業務改善や工夫も含め、幅広い改革を進めているという点を御理解いただき、学校訪問等の際には、「これはDX化できるのではないか」という視点を持って御覧いただけると、大変ありがたいと思います。
委員	こういったものを進めるときに、いかに小学生、中学生、保護者、各々に合わせてどのようにアピールしていくのが課題だと思われました。今後の実践に期待しています。
教育長	DX化の理念を誰にでも分かるように1枚にまとめてもらった方がいいので考えてみてください。
委員	今後の取組例にある「学習におけるデジタルとアナログの活用の実

	態調査」の目的を教えてください。
説明員	<p>教職員が実際に印刷している印刷物の状況と、印刷物がどのような用途に使われているかについて、昨年度から試験的な調査を開始しております。印刷物には、校務で掲示物に使われているものや、授業等で配布するプリントとして使われているものなど、様々な用途がございます。そのため、単に印刷物を削減すればよいという考え方ではなく、まずは教職員がどのような場面で印刷物を活用しているのかを把握することが重要であると考えております。その上で、印刷物の活用と実際の学びとの関係を踏まえながら、ICTの活用が有効な場面なのか、あるいは紙媒体の方が効果的な場面なのかを整理・検証するため、調査を実施しているところでございます。</p>
委員	<p>社会に出ていく前に様々な高度なものに触れる土台があり、さらに思考法を身につけられるというのは、恵まれたことだと思います。そこから将来、子供たちがどう活かすかという選択肢が増えるので、本当にとっても素晴らしいことだと思います。しかし、レベルの高いことを進めると、子供たちの間でも教職員の間でも活かせる人、活かさない人との格差がきつと出てきてしまうと思うので、そのあたりは丁寧に進めていただきたいと思いました。</p>
説明員	<p>教職員から、学校現場の課題を伺いながら丁寧に対応していきたいと思えます。</p>
教育長	<p>以上で提案の1は終了いたします。</p>
教育長	<p>続きまして、浜田委員から御提案のありました、「教育委員提案 未来の学び応援プロジェクトの進捗等について」、事務局より説明願います。</p>
説明員	<p>それでは、「未来の学び応援プロジェクト」の進捗について説明します。</p> <p>このプロジェクトは、学校の様々な夢のある取組の実現に必要な資</p>

金をふるさと納税の仕組みを活用したクラウドファンディングで調達し、プロジェクトの実現を目指すものです。

令和4年度に基金の設立や条例を制定し、脱正解主義、脱自前主義、脱予定調和、脱教師主導、脱3Kの5つを理念としてプロジェクトをスタートしました。今年で4年目になります。

次のページです。こうした取組を始めた背景です。本市では、これまで様々な教育改革に意欲的にチャレンジしてまいりました。新たな取組を実施するには、一定の財源が必要です。しかし、ファーストペンギンとしてチャレンジする様々な取組は効果が証明されていないものも少なくなく、どうしても財政との調整や実際に予算化するまでは長い道のりになってしまいます。そこで、すでに他部局で実績のある「ふるさと納税型クラウドファンディング」に着目しました。また、教育部局が予算を執行するだけの donee としてでなく、自ら必要な資金を調達する earner、プロフィットセンターになりたいという考えです。

そこで、学校がやりたいことがあってもリソースがなくてできないという状況を打破し、主体的に学校や子供たちが提案し、様々な人々からの共感を得てプロジェクトを実現できるよう教育委員会として環境を整備しようということでこの取組が始まりました。

次のページです。これまでのクラウドファンディングの実施状況です。当初500万円を目標としてスタートしましたが、年々寄付額は減少しているものの、この4年間、各学校から様々な提案があり、その実現につながっています。

次の頁からは、昨年度実現したプロジェクトについて各校の取組を紹介します。戸田第二小学校では、インクルーシブな学校を目指して子供たちにとって個別最適化された環境づくりに取り組みました。具体的には、イヤーマフ等の全学級の配置やローテーブル、マットの配置など特性のある子にとっても学びに向かいやすい環境構築を進め

ました。

次は上段、美谷本小学校です。こちらは昨年倒木となった学校のシンボルであるけやきの木の活用についての取組です。けやきを材料として様々な加工品の作成や、子供たちの PBL で活用する際の加工に費用がかかります。カットや研磨するための機材を購入し、子供たちが加工することができました。

その下の笹目東小学校は VR の活用です。仮想空間での英会話練習や体育での自分の動きを確認する際などに VR を生かしています。こうした先端技術を活用した学びを行うことができました。

となりの美女木小学校は、環境問題をテーマに子供たちが自ら提案したプロジェクトの実現を目指します。野菜づくりや植物の栽培を通じて環境問題を考えるとともに地域や保護者にも還元できる取組をしています。

中学校では、戸田中学校で教師の探究プロジェクトを行いました。STEAM 機器の活用や教職員のスキルアップにつながる研修を行うことができました。

こうした取組を通じて成果と課題をまとめています。このような取組をはじめたことで、学校が何らかの課題をもった際にすぐに自分たちで行動し、チャレンジできる環境をつくることができました。そのことが教育の質の向上や学校としても主体的に捉えて改革に着手できていると思います。

学校ごとに様々な課題がある中で、教育委員会として一律に支援するのではなく、各学校が個別に考え、自ら解決に取り組むサイクルが生まれていることは大きかったと思います。

課題としては、寄付金の減少が挙げられます。当初は多くの方に関心をもってもらったものの、年々関心が薄れており、持続可能性が課題となっています。

	<p>最後に今年度のクラウドファンディングについてです。まず昨年度提案のあったものについては、集まった寄付金を4月に補助金として各学校に配分し、取組を開始してもらいます。</p> <p>来年度のプロジェクトについては、現在各学校に募集を行っているところです。今年度より、子供発の取組を共通キーワードとして、子供たちから出てきた取組をプロジェクトとして実施する方向に見直して行う予定です。また、寄付が増える年末に向けて秋頃からクラウドファンディングを開始する予定です。説明は以上です。</p>
教 育 長	何か御質問等がありましたら伺います。
委 員	<p>概要的な動画よりも、子供たちがスクイズボールを使っていたり、ベルトサンダーで実際に木を切って加工していたり、モーションキャプチャーを使っている様子などのように、視覚的に子供たちが実際に使っている、いきただいた寄付金が、どのように活用されているのかを具体的に示すことで、より強い訴求力があるのではないかと思います。</p> <p>学校はが目指す取組を具体的に示し、クラウドファンディングへの協力をよびかけるような発信をすれば、寄付の増加につながると思いますが、そのような対応は難しいのでしょうか。</p>
説 明 員	学校の取組を紹介することはできますが、市内のPTAや保護者に対して寄付を促すような行為は、法令上慎重な対応が必要となります。
教 育 長	このクラウドファンディングについて、戸田市外にお住まいの方を対象に宣伝するなどのアウトリーチがこれまで十分ではなかった面があるかもしれません。今後、情報発信のための動画等を制作するのであれば、子供たちが実際に活動している様子や、いただいた寄付金によって、このような取組が実現できていることが伝わる内容が望ましいと思います。
説 明 員	今回から子供発信、あるいは子供を軸とした取組という方向性とな

	<p>っていることから、子供たちが本当にやりたいことを実現していく形を目指していきたくて考えています。それにあたり、学校としての発信の仕方もこれまでの学校の教育改革という打ち出し方よりも、子供たちの課題解決という形のほうが、第三者目線では伝わりやすいと考えられるので、そのような考え方で動画を作成していきたくて考えています。これまでは予算がついていないので自前で動画を作成してまいりましたが、情報発信を強化するため、必要な予算の確保についても検討していきたくて考えています。</p>
教 育 長	<p>今いただいた御意見等も踏まえながら進めてください。他にはいかがでしょうか。</p>
委 員	<p>教育においては、子供たちの気持ちや「やってみたい」という思いを応援していこうという考え方が根底にあるのではないかと感じますので、そうした部分を前面に出していくことは、とてもよいことだと思います。戸田の場合は DX の先端的なものに対する教育支援と子供たちが「やりたい！」ということに対する支援は戸田市の強みになると思います。是非この方向で進めていただきたいです。</p>
委 員	<p>1年間で結果を求められても必ずしも短期間でうまくいくものではないと思います。例えば、子供たちの発想を基に取組を進め、次年度以降も繰り返しながら、その学校で継続的に実施していくような内容も考えられるかと思いますが、そのような取組も対象となるのでしょうか。</p>
説 明 員	<p>市の予算のスケジュールもありますが、例えば、生徒会や代表委員会、あるいは PBL のプロジェクトなど、ある程度組織が学校の中にあるような所で、子供が変わっても後輩に引き継がれていく形で流れをつくれるよう、学校へ伝えていきます。また、今回プロジェクトでお金が集まらないケースも想定されるので、その場合どう対応するかについても必ず子供たちと考えて、例えば物を購入する場合であれば、優先順位を考えた上で、今年度購入するものと翌年度購入するものを検討して提出するようにお願いして進めていきたくて思っています。</p>

委員	<p>今までクラウドファンディングをされた方に対しては、成果や報告などはされているのですか。</p>
説明員	<p>取組について、SNS の note で発信をしていますので、寄付いただいた方には、その発信を紹介しています。また、戸田市の教育改革の指導の重点などの冊子を配布しています。多額の寄付をしていただいた方には、個別に視察などで実際の取組を見ていただくことも実施しています。</p> <p>来年度のプロジェクトに向けては、他自治体で行っている事例を参考に、学校ならではの特典もあわせて出すことをお願いしています。</p>
教育長	<p>新たな視点からも何かありましたら、引き続き御指導いただきたいと思えます。</p> <p>他に質問等がないようですので、以上で提案は終わりにしたいと思います。</p>
教育長	<p>続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして4件の報告がございます。</p> <p>令和8年度市研究指定等委嘱校 学校研究主題一覧について</p> <p>令和8年度における教科書展示会の開催について</p> <p>「人権講演会（家庭教育学級・市民大学講座）」の開催について</p> <p>その他</p> <p>詳細につきましては、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、すべての報告が終了した後に伺います。</p>
説明員	<p>報告事項 「令和8年度市研究指定等委嘱校 学校研究主題一覧について」報告いたします。</p> <p>1ページは小学校、2ページが中学校となっております。今年度は、戸一小、戸二小、美谷本小、戸田南小、美女木小、美笹中の計6校に新たな研究内容で委嘱を行いました。本市では、全小・中学校が自主</p>

	<p>的に研究指定校となり、校内における研修を進めております。研究内容としましては、各校の研究主題の実現に向け、教科等を通じて研究を進める学校が増えてきております。なお、今年度の研究発表につきましては、資料に記載のとおり、新曾小が 11/24、喜沢小が 1/19、笹目東小が 12/15、新曾北小が 11/19、芦原小が 1/22、新曾中が 1/14 に研究発表会を予定しております。教育委員の皆様には、改めて詳細な御案内をいたしますので、是非御参加くださいますようお願いいたします。</p> <p>その他の研究一覧にある 4 校の研究については、昨年度から引き続いて研究開発学校のモデル校として、研究を行ってまいります。小学校は 40 分授業、中学校は 45 分授業を前提に弾力的な教育課程の編成と、生み出した時間の活用について研究してまいります。また、選択した教科における単元ベースでの授業づくりや多層的な支援システムに基づく授業づくりについても今年度、各校で研究を進めていけるよう支援してまいります。</p>
<p>説明員</p>	<p>報告事項 「令和 8 年度における教科書展示会の開催について」報告いたします。</p> <p>3 ページを御覧ください。教科書展示会は県内各所で行われておりますが、本市は第 4 採択地区、戸田市立教育センターで、6 月 12 日（金）から 6 月 25 日（木）までの 14 日間開催いたします。御多用とは存じますが、お時間がございましたら、会場にも足をお運びいただければ幸いです。また、来年度が、現行学習指導要領における小学校の教科書採択の年となっておりますので、御承知おきください。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
<p>説明員</p>	<p>報告事項 「人権講演会（家庭教育学級・市民大学講座）の開催について」報告いたします。</p> <p>資料 4 ページを御覧ください。現在、生まれ育った家庭や様々な事情から健やかな成長に必要な生活環境や教育の機会が確保されてい</p>

	<p>ないなど、子供の貧困が社会問題となっています。子供の貧困は、経済的な困窮にとどまらず、学習面や生活面、心理面など様々な面において子供のその後の人生に大きな影響を及ぼします。そこで、本講演会を通して、子供の貧困の現状について理解を深めるとともに、貧困の連鎖を断ち切るためには、子育てや貧困の問題を家庭のみの責任とせず、社会全体で受け止めていくことが重要であることに触れながら、人権意識の高揚を図る機会にしたいと考えております。</p> <p>今年度の人権講演会は、「子どもに求められる「生き抜く力」とは～どん底から這い上がった家庭教師から学ぶ～」と題し、はい上がり先生 家庭教師のリスタ代表の宮坂 智恵子（みやさか ちえこ）様を講師にお招きして開催いたします。講師の宮坂様は、小中高と不登校、虐待、ヤングケアラーなどを経験され、テストの点も1桁という状況の中、獣医の夢をかなえるために一念発起し、静岡県の難関進学校を卒業し、慶応義塾大学へと進学。大学生時代から家庭教師のアルバイトを始め、以来「家庭教師」を一貫して続けています。テストで10点も取れなかった中学時代から、進学校に合格したオリジナル勉強法「宮坂メソッド」や、どん底を生き抜いた「生きぬき力」を通して、学力だけでなく、生きるための力を伝えていただきます。</p> <p>開催日は7月11日（土）、場所は文化会館 301 会議室です。人権講演会は、家庭教育学級・市民大学講座としても開催するもので、対象は小・中学校保護者が中心となりますが、一般市民の方も市民大学講座として受講可能となっております。今回も、会場受講に加えて、オンデマンド配信を実施いたします。</p> <p>説明は、以上でございます。</p>
教育長	次に、 その他ですが、事務局より何かございますか。
事務局	特になし
教育長	以上で、報告事項が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。

教 育 長	まず 令和 8 年度市研究指定等委嘱校学校研究主題一覧についてはいかがでしょうか。
各 委 員	特になし
教 育 長	続きまして報告事項の 「令和 8 年度における教科書展示会の開催について」は、いかがでしょうか。
各 委 員	特になし
教 育 長	続きまして報告事項の 「人権講演会（家庭教育学級・市民大学講座）の開催について」は、いかがでしょうか。
各 委 員	特になし
教 育 長	以上で報告事項を終わりにします。
教 育 長	それでは、次に、次第の 5 その他の「次回の教育委員会の日程(案)」について、事務局より説明願います。
事 務 局	次回の教育委員会の日程につきましては、6 月 18 日(木)午前 9 時 30 分からの開催と考えておりますが、お諮りいたします。
各 委 員	了承
教 育 長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局(案)のとおり決定いたします。次にその他ですが、事務局から何かございますか。
事 務 局	特になし
教 育 長	委員の皆様から何かございますか。
委 員	この 4 月の道路交通法改正に伴い、特に自転車の走行に関するルールが変わりました。最近、ヘルメット着用を求められるなど、自転車に対する関心が高まっています。そういった中で小学生、中学生に交通ルールを理解させるための実習や研修について、教育として行っている内容をお聞かせいただきたいと思います。

教育長	教育政策室から御報告いたします。
委員	最近では、高校の部活動における練習試合の移動中のバス事故や、沖縄での船舶事故なども発生しています。小・中学校での校外行事や部活動の移動の際の安全確保の状況について、報告していただきたいと思います。
教育長	報告事項として、教育政策室から御報告いたします。
委員	以前、栃木県で暴行動画の拡散に関する事案がありましたが、SNSに関する現在の取組や、考え方、方向性について聞かせていただきたいと思います。
教育長	情報モラル教育やメディアリテラシー教育の取組については、学校ごとに実施しているものもありますので、それらも含め、教育委員提案という形で教育政策室から御報告いたします。
委員	部活動の地域展開について、保護者の間でも興味関心が広がってきています。その中で、既存の部活動との関わりや方向性が十分に分かりにくいところがありますので、その点も含めて御説明いただきたいと思います。
教育長	現状を整理し、教育政策室から御報告いたします。それでは、本日の案件はすべて終了いたしましたので、以上をもちまして、本日の教育委員会定例会を閉会いたします。

	以上のとおり会議の経過及び結果を記し、相違ないことを証するため署名する。
	令和8年6月18日
	教 育 長
	教育長職務代理者
	委 員
	委 員
	委 員
	書 記